

会議名	第3回港区学習支援事業業務委託候補者選考委員会
開催日時	令和4年2月8日(火)
開催場所	港区役所9階 911及び912会議室
委員	松原 康雄 委員長 有賀 謙二 副委員長 金子 充 委員 新藤 こずえ 委員 相川 留美子 委員
事務局	生活福祉調整課自立支援担当
会議次第	1 開会 2 プレゼンテーション(応募者からの提案説明及び質疑応答) 3 委託事業候補者の決定について 4 その他 5 閉会
配付資料	資料1 提案書(A社およびB社分) 資料2 第二次審査採点表 資料3 選考委員会審査基準 資料4 選考委員会委員名簿
会議の内容	
A委員	<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開会挨拶、委員挨拶 ・次第説明 ・審査基準説明 <p>2 プレゼンテーション</p> <p>(1) 事業者Aによるプレゼンテーション (質疑応答)</p> <p>7ページに記載されているボランティアの募集、研修について。現状はどのような募集をしていて、どのような方を応募しているのか。学生が多いのか、元教員が多いのか、などを教えて欲しい。</p> <p>研修については、ボランティアを募集したあとに研修をするのか。勉強を教えることを中心としているのか。或いはそれ以外ものか。</p>
事業者A	資料のとおり、在籍している講師が都内で30,000人いる。その講師に港区でこのような福祉的な事業をすると連絡し、それに興味を持つ人、手を挙げた人をまず集める。この「興味を持つ人」が意外と多い。我々は都内の自治

	<p>体でも複数の実績があるが、多くの人に興味を示す。その人たちに事業の意図を説明している。その中で「勉強だけ教えたい」、「レベルの高い指導をしたい」という人は排除し、「基礎学力を上げたい」、「個別で面倒を見たい」、「家庭環境に問題を抱えている子の支援がしたい」という希望を持つ人を講師として配置させていただく。</p> <p>研修においては学力の検査は事業者として当然行う。一定の層以上の学歴を有する人が在籍している。あとは研修でこの事業の意図を説明させていただく。また、年2回定期的な研修をする中で、事例の検討を行う。講師と子どもが1対1、1対2などの距離が近い関係だと、子どもからの依存等が発生する場合があるので、ケースバイケースで対応できるよう研修する。</p>
B委員	<p>事業者が抱える講師は有給の講師が前提なのかと思うが、区の事業としては、在勤在住の地域の大人とのかかわりも重視している。これまでの事業実績の中でボランティアを活用した事例があるのか。港区の事業を行う上ではボランティアについてどのように考えているのか。</p>
事業者A	<p>仮に受託できた場合は、令和2年度までに実施していた区の学習ボランティアの養成講座の修了者には声かけをさせていただく予定でいる。</p> <p>当社に在籍している講師については、事業の趣旨を説明したうえでボランティアを募集する。大学生については、各大学の学生課を通じて、ボランティアを募る予定でいる。</p>
C委員	<p>10ページに記載がある関係機関との連携について。行政機関以外とどのような連携をするのか具体的に教えて欲しい。</p>
事業者A	<p>学校や行政機関のほか、独自の取り組みとして心理相談を行っている団体を活用する。</p>
D委員	<p>この時期なので、コロナ対策についてどのような取り組みをしているか端的に教えて欲しい。</p>
事業者A	<p>予防として、検温・消毒・マスクの着用。オンラインによる授業、オンラインによる情報提供を行っている実績がある。</p>
E委員	<p>多様な子どもが本事業に参加すると思うが、どんな子どもに一番に来てほしいと考えているか教えて欲しい。</p>
事業者A	<p>1つは時間がある子。もう1つは悩んでいる子。この子たちになにかきっか</p>

	<p>けを与えたい、接触をはかりたいと考えている。</p>
E委員	<p>必ずしもボランティアでは解決できない問題が発生した場合、どのように対処するか教えて欲しい。</p>
事業者A	<p>専門部署があり、相談を持ちかける。例えば、講師が子どもから手紙をもらい、そこに自殺を仄めかすような内容があった場合や、あと1日の欠席で留年してしまうような場合、親に暴力を振るわれるから家に帰りたくないといった場合など。このような場面で相談をすることができる専門部署と連携しながら解決する。</p>
A委員	<p>(2) 事業者Bによるプレゼンテーション (質疑応答)</p> <p>学習支援だけでなく、子どもの生活も向上を含め、総合的に取り組んでいることが伝わってきた。その成果は、学習支援は進学率などの指標で成果が見えやすいが、それ以外の家庭へのアプローチの成果、地域とのつながりができた、子どもたちが笑顔になったなど、見えにくいものを見える化することも重要。具体的にいままでの取り組みで、成果を見える化するためにどのようなことをしてきたか、何かあれば教えてほしい。</p>
事業者B	<p>ロジックモデルの作成をしている。学習会を実施することでどのようなゴールを目指しているのかを設定し、それに沿って入校当時と、1年経過後にアンケートを取っている。その中で、この学習会が自分にとっていい場所になっているか、勉強する意欲が湧いたかなどを確認し、分析している。</p>
B委員	<p>事業にかかわるスタッフ、職員の中に教育や心理の専門家がいたが、福祉の有資格者や経験者が少ないように見えた。福祉の専門性をどう向上させるか、福祉の視点をどうフォローしていくかを教えて欲しい。</p>
事業者B	<p>団体内に社会福祉士など福祉系の有資格者もいるので、必要であれば連携できる体制が整っている。</p>
C委員	<p>外国籍、発達障害など、特別な支援が必要な生徒が皆と一緒の教室で授業を実施することになる場合の配慮策があれば教えて欲しい。</p>
事業者B	<p>弊団体の学習会の2割程度が特別な支援が必要な生徒。外国ルーツの子どもに対する学習支援は、他自治体での実績があるのでノウハウを生かすことができる。通常の学習支援のほか、学校生活で必要な日本語の習得も支援している。</p>

	<p>また、独自教材も開発したのであわせて活用している。</p> <p>発達障害の子どもに関しては、心理士のスーパーバイズを受けながら、ひとりひとりの特性に対応した支援ができるように工夫している。大きな教室のなかで、どうしても周りの声や音が気になってしまう子に対しては、教室にあるパーテーションを使用しながら気になるものが視界に入らないようにする、イヤホンで回りの音や声が届かないようにするなど、個別の対応をしている。また、周りの生徒にもそのことを説明し、理解を得ている。</p> <p>不登校傾向のある子については、学習会は学校でも家庭でもない居場所であるので、気にせず本人が来られるように、スタッフも不登校支援に関する研修を受けている。学校で習っていない科目のサポートや復習、特別な入試へのサポートを行っている。</p>
D委員	<p>地域特性について。資料の中でも港区の特徴について説明をしているが、支援の手法とどう結びつくかを端的に説明してほしい。</p>
事業者B	<p>港区の特性として、高所得世帯の割合は他自治体と比べて高い。学習会に来るのは公立中学校に在籍している子が多い。区内の中学校のスケジュールをもとに年間の学習計画を立てている。港区が実施した調査によれば、学力の下位層は世帯収入が低い傾向にある。不登校や生活習慣の乱れも世帯収入が関係している。弊団体では、学習力の向上はもちろん、生活力の向上を目指している。また、港区の特性として区内の経済格差があり子どもも感じ取っている。そこから生じた肯定感の低さや劣等感をケアすることを念頭においている。</p>
E委員	<p>多様な子どもが本事業に参加すると思うが、どんな子どもに一番に来てほしいと考えているか教えて欲しい。</p>
事業者B	<p>必要としてくれる子どもは全員受け入れる姿勢は大前提だが、これまでの実績として、家庭環境や生活状況から自信が持てない子どもを多く受け入れてきた。多様な大人との出会い、他の学校の子どもの出会いがきっかけで、進路について考えるようになり、高校進学後に成長した姿を見せてくれることもあった。勉強を頑張っている人はもちろん、勉強を頑張る意思があるが、自分でどうしても頑張れない、頼れる人と出会えていない人が来てくれるといいと考えている。</p>
A委員	<p>3 委託事業候補者の決定について (各委員からの講評)</p> <p>どちらの事業者も実績があるので、基本的なことはやっていただける。実現性が高い印象を持った。AとBは事業者としての性質が異なるので特徴がで</p>

	<p>いる。プレゼンについては、Aについては具体的な受け答えが少なかったように思うが、Bは実践寄りの回答が多かったように思う。</p>
B委員	<p>どちらの団体も実績が多いので、基本的なことは期待できる。事業者Aにボランティアのことを聞いたが、講師の数など量的な要素が目立った。Bはどういう人に集まってもらいたい、どういうスタッフを揃えているなどの事業の目的を的確に捉えたボランティア集めをしている印象を抱いた。</p>
C委員	<p>どちらの事業者も取り組み意欲を高く感じた。その中で、事業者Aは学習指導により力を入れているような印象だが、本事業は福祉的な側面もかなり強く、その点事業者Bは、学習支援以外にも外国籍、発達障害及び不登校など特に配慮が必要な子どもに対する具体的な提案があった。</p>
D委員	<p>事業者Aと事業者B、提案書のうえでは拮抗していて、わずかにBを高く採点した。実際に話を聞いてみて、Aはやや説明に具体性がないような印象を受けた。Bのほうがより実践的だと感じた。</p> <p>また、生活就労支援センター、子ども家庭支援センター及び児童相談所など、様々な関係機関や社会的資源との具体的な連携がBからは提案があった。コロナ禍での取り組みについても、質問するまでもなく時勢に合った答えもあり、若干Bの方が優れていると感じた。</p>
E委員	<p>地域連携についてAは弱い。関係機関や社会的資源の連携も含め、中身としてはBの方が優れていると感じた。</p>
事務局	<p>二次審査の合計点は、事業者Aが178点、Bが209点です。二次審査の得点は各事業者とも満点の6割を超えています。</p> <p>続いて一次審査と二次審査の合計点が、事業者Aが536点、事業者Bが631点です。1位が事業者B、2位が事業者Aとなりました。</p>
委員長	<p>それでは、委託候補者は事業者Bに決定いたします。</p>
D委員	<p>事業者Aの取扱いについて。事業者Bに事故があった際、再度選考を行うことが難しいためAを次点と位置づけ、事故があった際は、Aを契約候補者として取り扱うようお願いいたします。</p>
委員長	<p>他の委員もよろしいでしょうか。(各委員から異議のないことを確認。)</p> <p>それでは委託候補者はB事業者に決定し、A事業者を次点として取扱います。</p>

委員長	<p>4 その他</p> <ul style="list-style-type: none">・事務局から今後の契約に向けてのスケジュール説明 <p>5 閉会</p> <p>それでは、第3回港区学習支援事業業務委託候補者選考委員会を終了します。</p>
-----	--